徒然草獨評判

〈寛文板〉

吉田幸一編

古典文庫

吉田幸一編

淡路草獨評判

〈寛文板〉

古典文庫

古典文庫第四一八冊©

昭和五十六年七月二十日印刷発行　非売品

徒然草嫌評判

編者　吉田幸一
発行者　吉田幸一
印刷者　白橋印刷所

発行所　114　東京都北区西ヶ原三ノ三四ノ一二
古典文庫
電話（九一〇）二七一七
振替口座東京九・一四五九七番

不許複刻

[illegible]

此为试读,需要完整PDF请访问: www.erton

東都名題評判　上巻

ひろまりよりこのかた代のためしまれなるべき世なり。松平越中守殿は御
運興隆のときを過こし此境なる思界の俗乃人々
まのあたり後鑑の江戸ゆこぞりまて
○山のてまりがりてれい藤つ民乃まどはめもおよばれ
ふ生園繁昌なるおれとこ人のかぞふれば数の書
をれぞりーあひとて千時寛永十二の春の頃祝
祭とうかをいでいと賑ひしは江戸乃あり様乃
栄乃繁昌なるとてやをこぬるあれば是は
きりの方の朋友なるてだがひよりて之を問ふ時栄人の
えもり恒例天皇乃御年ふるーー最始け師が事

と文のひきたるを見て豊よや花の
法師こそ此世にまとゝ人の取聞きをきぬとき〻ての
書はまゝかゝ思ひ侍るに国綱前相原入道の
とゝの野遊とて此世にまれ法書おるをきわるよりて
さりとも人々れども我ゆゑとき見人が身は通りどさ
世どもとゝ物ゝてあれかゝるゝ所よ又国ゝ祇ゝの
人八十歳ゝ及ぶ高僧門ゝよりも〻国人て世間ゝと
くあつ世ゝはハ口風やゞゝよみてよかゝぬ物ゝ
中ゝゝ源氏物語やどハゝくゞあんさりかゝ物が
なゝてハゝてゝなゝぬ此つ世ゝ世代為ゝて
物語ゝ人侍ゝんゞゝハ日を書ゝるゝ人ゝりゝゝゝゝ

初て来りぶんとて始て是なり。この殿門と号ハ弘安年よ
り是興国よりてり天皇ゑの国〳〵御個しと三十余く
興国よ位居〳〵天十余のよりよ始朝〳〵響所をして
国〳〵ありきなるが当時は地よりそのり殿日雨降
なるがよりの殿門をてりなるの面やりつ色〳〵よ仕色〳〵
岩をよ海んぶとてつ岩をあれとふるがよりつ岩すく〳〵ぬ
きて来るまし祈けつき〳〵岩ハ古図菊姫法師と
以人が作りや儒道秋色と初ふきせるまりの
りまねし代書ふ書ふりやたんぶれりまの殿秋
道ふ〳〵皆天皇よりの秋色をそむきあり書かり。
さて菊姫法師いなが者うとやりよ才一慢心才

二憑書ヲ三歌心深世乃ヲろかさと皆仰ク所人ろ
ー是竟ハ氣ちりやろろかしと志ろがの
けれ世ー世ハ紙道ゆもあまねとれわ〜まぬ〜きさまな
ふしと書わろ事慢心やりべ〜れ女人なを〜のため
ろ書あ〜ぶりもわんかきても愛別ゆせば我ふしれけ
ふ人乃耳ゆ入わろ言葉ゆ少てかやと書ざろこの書れ言葉
皆知ろ人ハ書あけまども者ち賢人書いこ
て道ハ知わる半ろあ〜まで拙知ざ文成草ゆかしれら
てハ言と他者乃ちまぬごと〜書をくあ〜ぶ面白わん
様の代ゆも我ゆ名とあろ〜わるぶ〜書をろ心花
慢心ろいづゆ面からずや

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

すり心こころをもつの人大和尊と思ひ時〻愚かのことりくさ
ぬ〻ひ此ハ中さかるべきよ新まよ書人をきて今代まで
て敬ひときの尊乃恵者のゆ法ゆへ物事ゆ法のか
ごとりよ有〻どや祖故人の法法よ百人す誉られ数か
人を悪し者人す誉られ悪人すそしら利ものこれ
善也と論語ゆも心拘ちなれば善女ハ悪女のりてきと
して我ゆ為ちなすゆ悪人のもしもハ善ゆ善徳乃いと
里ゆてもかちんゆれども悪人の我ゆかどゆ里ゆハよゆ
ら法華経を釈迦の悔ゆれば貴賤群集ゆ中と云
破ちて善人とよび悪人を誉とゞ里ふを心中ゆ有
ひとり道ゆて安房のり〻四人てゞゆやうくわんとゞ里ふ

此为试读，需要完整PDF请访问：www.erton

業は真実の仏道をあらはす事はまことや禅法
指をゝるとゝの事は我ゆびをゝりて禅法をあんじけ
る人を愚なりとて我ゆびのさきをゝるとゝ我ゆびを
ゝるとゝの事は法華経の偈をゝぼえて大事は法華の偈をゝぼえ
しげるなりゝや
道き法師ゝ経ゝ島よ聽因乃貴賤雑集せ中よ男一人
色の黒く装て死人のごとく倩なる人心いりまやらんと
まづ口をぶ殺して指をかむし歯をゝりぶさあぶ
ぶ歯を落とゝ云ゝ大事は聽聞也我ゝ言ゝ者ば法人のさ
まをしげるなりとゝて法華ゝ高法師ゝ歌よ詠り
死なるゝ死なる程なるばかりとゝ者ゝ云なれども

雖然の儀と云ひながら、兼好女の申しうけ給はりて、
大事の法義の儀を破らんや
兼好が賀茂のうづ殿と云ふ人、面せきあるとて、月法師あ
しらはれ、ものまこめかりて、見めぐるが神づり給へ
ばめこ申して、ものもうけ給こと、さぶらひ侍人、是とき
て、ものまこめかりめやすき事とて、物と見給へ
云けるを、法師云、我やうやうがい嗜今ものやわんと、
ものぶして、物とて、ものまこめ人、形ばかりとて、
人感じて、所望して、見せ給へと、申しかば、
のものまこめ事と、書めるを、兼好が大事れ、
女のものまこめ、ものもうけ、

男の慢心なりけるや

兼好云ふ人ハ日夜をあまたのあはれまりあるべきを

さて大事にこそ思ひ侍るべけれ僧都ハ法師なりと云ひ

ながらも花をもてあそび遠き所の

所のあり様ハ蓑笠借て彼方へ行かんとすれば

人ハ雨さへ降りぬべきぞと云へ

ばいとゞ雨降りぬべきを

なりのみ云て出でぬれば

いとゞ雨降る事をひきて兼好

いはく一大事なれば生死の

事をかきとゞめ中ごろ千年の

けりや但兼好時代の法師ハ千年ばかり人の死せざ

ぬ所なりけるや

兼好云く蚊ばかり事ハ尊氏将軍ハ桃掛て武蔵守ゝ

師直と云人ありて太平記抑抑と書きたる抑抑家と
や云人を迎衛殿九条殿二条殿一条殿などと云ふと云ふ
将軍家をも云ふ云人只武蔵守師直は右大将頼朝の
桃原の検校なりし者也彼師直は兼好つよく推参せしと
ゝやあれども師直は若判官の義経のごとく憑まれ
と送りしに兼好とやとして書めることを野槌よ
そしら私ものゝ心腹ぐりなりしば師直は人なれば時く
徒然草に書物をかゝんがためとも云べし私も兼好云ワ
ろき友七人よき友三人ありと書をきしゆゑよき友
三ツは酒肴なり友を才一は書なり和を以武蔵守師
直率土平記は書きたるはまことに情若き人なりて尚

類の人居れども世を捨てゝ身を不仁なりし士と
と見えたりゆゑ彼人を友として兼好まゝにぬる
ハ拙とりしゆゑ推参せりと世男の色を取りへばよろ
ゝき兼好なゝどや故人云ふ所の心ばせをんと思ひ出で
給へ世下の心ばせよ又貴人の心ばせ人と思ひ出で
の心とひき見よと云ふきしゝが所直を友とせし兼
好が心のうちこそ思ひやられ侍り
兼好ハ故酬参詣仕へ参りしれず物ゝあれバこの
志縁会のたゝひ出て限彼の國へうたしまつるぬきハ兼
好宮人と共せんと云ふ通世ゝうゝ通べしあ実れ通世
らば世を捨てゝ所直の換ゝ侍ゝ乃りゝ推参すべきや

無始えのちがけもバ厚罪一生あたらぬ往生て死人こ
そ[illegible]かきり是又天理あ違なり人のいろハ天ちをも
つけられすがいのちなりがゆへあ天道の事ハ是ハ
あてかけもとも是人まてをつゝ天命ハ事ゝくゝろ
めろゆへ俗様ゝ天道をたゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
とゝへで人の煩めろあ[illegible]聞ゆ逢てもゝ[illegible]なけもバ
様俗あ[illegible]会しゝもゝ[illegible]なけもバこれゝハ天道
ゝごいとゝへ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]人のうまれつきをゝへぬ[illegible]
ハ天の道なりをろゝ[illegible]人ハ髪をゝ[illegible]ゝ[illegible]
とゝ生ひごいあをゝハ父母ゝ[illegible]ゝ[illegible]
そんぞゝぬもバ父母不孝との俗ながゝ父母の所を天

此为试读，需要完整PDF请访问：www.erton